

矢作川流域圏懇談会通信

R1 山部会編 vol.1



発行日：令和元年7月

編集・発行：矢作川流域圏懇談会 事務局

◆第51回山部会WGを開催しました！

6月22日(土)に第51回山部会WGが岡崎市にて開催されました。今回は、今年度初めてのWGであり、懇談会の設立要旨・規約を再確認するとともに、10年間のとりまとめの方向性に関する意見交換を行いました。また、平成24年から山部会が取り組んできた「山と山村」「森林」という2つの課題に対する4つの解決手法(流域圏担い手づくり事例集、山村ミーティング、森づくりガイドライン、木づかいガイドライン)に関する進捗報告と意見交換を行いました。



日時：令和元年6月22日(土)

場所：岡崎市額田センター「こもれびかん」集会室A・B

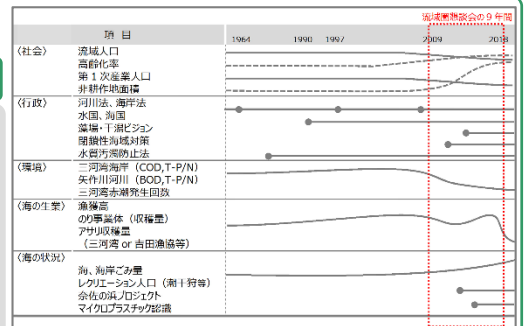
参加者：23名 ※事務局を含む

◆主な会議内容

1. 山部会のこれまでの成果のとりまとめ手法について



山部会のこれまでの活動成果のとりまとめについて、昨年度に議論された「流域年表」及び「冊子」の作成を提案し、意見交換を行いました。流域年表は、矢作川流域圏懇談会が設立された10年前からではなく、それ以前の自然災害、法律、世の中の動きにも配慮したものにしたいと考えています。また、冊子は流域圏懇談会の設立から現在までの活動について、流域市民に分かりやすく整理されたものとして取りまとめます。そのためは、どのような体制で制作するのが望ましいか、参加者で意見交換を行いました。



流域圏年表作成案(海部会のイメージ)

2. 流域圏担い手づくり事例集について



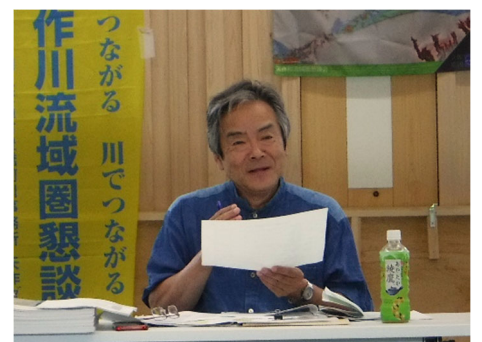
これまでに4冊の山村再生担い手づくり事例集(2013~2016)、2冊の流域圏担い手づくり事例集(2017~2018)を作成するため、持続可能な流域づくりに関わる102団体取材してきました。また、2017年度からは、事例集づくりでできた人のつながりを深め、広げることがをめざして「事例集交流会」を2回開催してきました。事例集の作成や交流会の開催は、一定の成果を得たものの、今後の展開や事例集の活用方法に関する課題も見えてきました。そこで、今年度は新たなヒアリングを行わず、これまでの活動成果を振り返り、今後の方向性について検討する年としたい考えです。また、その成果を、懇談会10年間のまとめにも盛り込みたいと思います。



3. 矢作川流域山村ミーティングについて



山村ミーティングでは、現在「矢作川流域林業担い手100人ヒアリング」と「矢作川感謝祭」の2つに取り組んでいます。そのうち、100人ヒアリングは、昨年半分以上のヒアリングを終え、代表的なメンバーを集め、夜明かしの座談会を行いました。さまざまな現場の生の声を聞くことができましたが、驚いたことに、ヒアリングの成果は上司ではなく、仲間に見せたいというものでした。秋にかけて引き続き意見の収集を行い、報告会と懇親会を開催したいと思います。報告会について、何か良いアイデアがあればご提案をお願いします。



4. 矢作川流域圏木づかいガイドラインについて



木づかいガイドラインでは、以下に示す内容で進めています。

- ①今年度の木づかい推進「スギダラ・キャラバン」は、現時点で46箇所の実施を決定しています。年々増加しており、世の中のニーズを感じています。
- ②安城市の小中学生を対象とした野外教室では、茶臼山高原の水源地の森を使って木づかい推進を行っています。今後は木とアルミ(アルミを使用することで軽量化することができる)を用いたどこでもシリーズを展開したいと考えています。
- ③現在、根羽村では農泊推進事業を進めています。我々は、徳島県上勝町を訪問し先進事例を学ぶとともに、竹灯籠づくりや林内のヨガ等もプログラムに含めたいと考えています。特に根羽ROCK、木の階段づくり、ウッドデッキは、この地域の特色になると考えています。



◆話し合いでの主な意見 (・意見 ▶回答)

●山部会のこれまでの成果のとりまとめ手法の検討

《流域年表について》

- ・ 2000年の東海豪雨(恵南豪雨)がきっかけで森の健康診断が誕生した。実は、海の健康診断がその2年ほど前に誕生していた。はじめは、貧酸素塊調査という名目で、研究者の下で市民が調査をするという構図になっていた。しかし、それでは市民目線の自発的で楽しい活動にはならないと思い、海の健康診断を提案した。年表を整理することは、社会的背景との因果関係を見るのにとっても効果的だ。(丹羽)

《冊子について》

- ・ いつまでに誰がやるかを決める必要がある。山部会は回を含めて4回しかなく、別にWGを立ち上げたほうが良いと思う。森の健康診断、矢作川水系森林ボランティア協議会の10年誌にはどれくらいの時間をかけたか。(洲崎)
 - ▶ 毎月1回定例会を行い、3時間程度の議論を行った。原稿が集まらない時は、座談会を録音して原稿にした。どの会にも、事例集の制作に関わるライターの浜口美穂氏がとりまとめを行った。(丹羽)
 - ▶ 是非、編集委員会を立ち上げ、浜口氏にとりまとめをお願いしたい。(洲崎)
- ・ 山川海の座談会を入れると良いと思う。(洲崎)
- ・ 今日は大変重要なことを議論している。事務局からの受け身で作るのか、矢森協の冊子のように自発的に作るのかで成果は大きく異なると思う。着地点をしっかり決めないと、どっちつかずのものができ上る恐れがある。(蔵治)
- ・ これまでに流域圏懇談会に関わった人を対象にヒアリングを行い、思いをまとめてはどうか。(浅田、丹羽)

自薦他薦により、編集委員として浜口氏(山部会)、洲崎氏(山部会)、近藤氏(海部会)、高橋氏(海部会)の4名が決定し、月1回のペースで懇談会の成果をとりまとめることになりました。編集委員会で話し合われたことは、各部会に報告するとともに、地域部会での意見をフィードバックしたいと考えています。(※翌6/23事例集交流会決定事項)

●流域圏担い手づくり事例集

- ・ 事例集の製本を中綴じにすることで、印刷代が安くなる。今後の増刷はこの方法で行いたいと思う。(洲崎)
- ・ 昨年度の事例集の中に、新聞記事が含まれており、出版物とWebでの掲載に対して使用料が発生する。特にWebへの掲載料は毎年発生することから、今後は新聞記事の掲載は避けるようお願いしたい。(蔵治)

●矢作川流域圏山村ミーティング

- ・ 流域の森林組合員を集めるからには、何か主題となるテーマが欲しい。100人ヒアリングの中でポイントとなるキーワードをお願いできればと思う。また、ミーティングでは必ず懇親会を設けてほしい。(今村)
 - ▶ 林業技能員には、自分をデザインしたいという思いが非常に強いことがわかった。まだまだ学びたいという要求にこたえる集まりにしたい。9月の矢作川感謝祭2019は、そんな集まりを想定していたが、あまり落ち着いて話す場所がないので、別立てで、ミーティングの機会を設けたいと考えている。(丹羽)
- ・ 流域の森林組合員が、一堂に会して発表をするのはまだまだ早いのかなと感じていて、まずは地域ごとに発表の場を設けて、その後にフィールドワークショップで先進事例を見ながら意見交換をするようなイメージで、徐々に拡大する必要があると感じている。(蔵治)

●矢作川流域圏木づかいガイドライン

- ・ 次回のWGでは、フィールドワークとして根羽ROCKを出席者で体験してはどうか。(洲崎)
 - ▶ 実体験していただき、農泊推進事業の中で活用できるか、率直な意見をいただきたい。(今村)
- ・ お土産を持ち帰ることができるようなシェア農園のような構想はあるのか。(浅田)
 - ▶ 有給農地が50haあるので、まずはトウモロコシから取り組みたいと考えている。(今村)



今後のスケジュール(予定)

次回の山部会WG・フィールドワークは、7月19日(金)~20日(土)根羽村にて開催します。

◆お問合せ◆

矢作川流域圏懇談会事務局

〒441-8149 愛知県豊橋市中野町字平西1-6 国土交通省豊橋河川事務所 事業対策官 神本、指導員 宇野
TEL 0532(48)8107/FAX 0532(48)8100

*矢作川に関する情報は、矢作川流域圏懇談会メーリングリスト(yahagigawa@ijinet.or.jp)までお送りください。

